

運動と多様に関わり、よりよく課題を解決することを通して、 誰もが運動に親しむことができる体育科の学習

I 体育科研究の方向性

1 主題設定の理由

体育科においては、児童を取り巻く現状を踏まえ、体育や保健の「見方・考え方」を働かせ、課題を見付け、解決に向けた学習過程を工夫することにより、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の育成につなげることが重要となります。その際、運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図ることが重要とされています。

これまでの本校の研究では、運動と多様に関わりながら課題を解決していく過程を大切にしてきました。運動と多様に関わりながら課題を解決することにより、技能の習得に偏ることなく運動に親しむ児童が増加しました。一方、体育の学習が日常的な運動につながっておらず、運動習慣の二極化の状態も依然として見られます。

全体研究主題では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」をテーマとしています。体育科における探究する児童の姿として、「課題となる場面から自分で予想を立て、運動と多様に関わりながら、解決方法を考え、実行していくこと」と押さえました。

以上のことから、体育科として求められることと本校の研究の成果と課題を踏まえ、研究主題を「運動と多様に関わり、よりよく課題を解決することを通して、誰もが運動に親しむことができる体育科の学習」と設定しました。課題となる場面を見付け、運動の特性に着目して自分たちで予想を立て、運動を「する」だけでなく「みる、支える、知る」など自己の適性等に応じて、よりよい解決方法を選択していくことで、運動の様々な楽しさを実感します。そして児童全員が「運動は楽しい」という思いをもつことで、技能の有無や優劣や程度等に関わらず、運動に親しんでいけるような資質・能力を育むことができると考えました。

2 目指す児童の姿とその具体

運動と多様に関わり、よりよく課題を解決することを通して、運動に親しむ児童

「運動と多様に関わる」とは、運動を「する」だけでなく、他者の運動を「みる」、他者の運動を「支える」、運動のこつや成り立ちを「知る」等の関わりをすることです。

「よりよく課題を解決する」とは、多様な解決方法から、運動との関わりの中での気付きや、運動の特性、運動の価値に着目して、よりよい方法を選択し、課題を解決することです。

「運動に親しむ」とは、技能の有無や優劣や程度を問わず、誰もが自分に合った運動を楽しめる状態であることです。

II 研究内容の具体

1 自己やチームに合った課題発見のための単元構成

誰もが運動に親しむことができるようにするには、運動がもつ楽しさを十分味わう中で児童一人一人が自己やチームに合った課題を発見し、解決までのプロセスを計画していくことが重要です。そこで、課題発見のために効果的な単元構成を考えました。

○教材設定の工夫

- ・児童の実態から、全員が運動の特性を理解し、運動に親しむことができるよう教材を設定する。

○試しの活動の充実

- ・単元スタート時の現状を把握できるように、試しの活動を設定する。

○ミニゲームの設定

- ・単元のゴールを体験できるような機会を毎時間設定する。

2 誰もが運動に親しむことができる指導の工夫

誰もが運動に親しむことができるようにするためには、運動の中で課題となる場面を見付け、授業の中で自己に合った運動との関わりをし、運動の特性に着目しながら、課題を解決していくことが重要です。この際、児童が運動をする中で課題意識が生まれるように働きかけます。そうすることで、児童にとって必要な学びとなり、よりよい課題解決へとつなげることができるからです。そこで、指導の工夫を考えました。

○環境設定

- ・運動との多様な関わりができ、特性に着目しやすい場の設定をする。
- ・運動との多様な関わりをしやすい、グループの設定をする。

○言語活動

- ・運動の特性に着目できるように、動いてみた感じや、運動のポイントを共通の言語として表現できるようにする。

○仲間との関わり

- ・運動との多様な関わりをのよさを実感できるように、「みる」「支える」等運動との関わりを明確にして他者と協働できるようにする。

3 学びを振り返り運動の多様な価値を認める評価

児童全員が自分に合った運動との関わりをし、運動に親しむことができるようにするためには、児童自身が「できる」「できない」に傾倒せず、適切に自分の現状を把握し、学んだことを振り返り、次時や他の単元の学びに生かしていく必要があります。そこで、評価の在り方について考えました。

○自己評価

- ・体育ノートを活用し、自己の現状や問題に対する解決方法を蓄積していき、次時につなげられるようにする。

○相互評価

- ・他者の運動をみる際に、視点をもって「みる」ことを意識し、気付いたことを伝え合うことで、相手の運動に貢献できるようにする。

○形成的評価

- ・児童の現状を適切に見取り、適時フィードバックすることで、児童自身が新たな課題を発見したり、課題の解決方法を選択したりしていけるようにする。

< 1年次研究の重点 >

- ・自己やチームに合った課題発見のための単元構成
- ・誰もが運動に親しむことができる指導の工夫

Ⅲ 研究実践

6年生実践『フィールダーティーボール』

実践のテーマ： 仲間と関わり作戦やルールを工夫することで、
誰もが楽しんでゲームをする学習

1 研究授業のねらい

本単元は、「E ボール運動 ウ ベースボール型」に分類される単元です。ルールや作戦を工夫したり、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動です。行い方を理解するとともに、攻撃や守備のボール操作と、ボールを持たないときの動きができることをねらいとしています。本単元は、「打撃」に着目しながらも、ベースボール型の特性である「守備」の重要性にも気付き、攻防を楽しむことができるよう単元構成をしました。この際、常に児童の課題意識から単元を構成していけるよう、前時の振り返りの時間を充実させるようにしました。また、兄弟チームを設定し、常に運動を見合えるようにしました。これらの手立てによって、仲間と関わりながら自己やチームの課題に合った練習をしたり作戦を立てたり、ルールを工夫したりして、楽しんでゲームに参加することができる学習を目指しました。

2 単元の指導計画（6時間扱い）

時	学習内容・学習活動	他教科・他領域との関わり	運動と多様に関わる児童の姿
	「病気の予防」 ○病気を予防するには、抵抗力を高める必要があり、運動も効果があることを知る。 ○生活習慣病には、運動不足などの生活の仕方が原因となっていることを知る。		
①	◇単元の見通しをもつ。 ○準備運動 新聞紙ボール飛ばし ○場の準備の仕方の確認 ○試しの活動 ○振り返り	○道徳「言葉のおくりもの」	【知る】協力して用具の準備の仕方を確認したり、運動を試して気付いたことを伝え合ったりして、単元の見通しをもつ。
----- 自分やチームに合った課題を設定し、楽しんでゲームをしよう。 -----			
②	◇狙った位置にボールが打てるようにする。 ○準備運動 ○課題の確認 ○練習方法の選択 ○ゲーム ○振り返り		【みる】兄弟チームで動きを見合ったり気付いたことを伝え合ったりして、動きのポイントを理解する。
③	◇得点を取らせないように守備をする。 ○準備運動 ○課題の確認 ○練習方法の選択 ○ゲーム ○振り返り		【みる】兄弟チームで動きを見合ったり気付いたことを伝え合ったりして、動きのポイントを理解する。
④ (本時)	◇チームに合った練習をし、作戦を立てゲームをする。 ○準備運動 ○課題の確認 ○チームタイム ○ゲーム ○振り返り	○国語「グループで話し合おう」	【みる】動きのポイントを意識して、友達の運動を見て、アドバイスをする。 【支える】審判をしてゲームを運営する。
⑤ ⑥	◇「ティーボールリーグ戦」をする。 ○準備運動 ○課題の確認 ○チームタイム ○リーグ戦 ○振り返り	○道徳「うちら『ネコの手』ボランティア」	【みる】動きのポイントを意識して、友達の運動を見てアドバイスをする。 【支える】司会進行や審判をして、リーグ戦を運営する。
----- 自分やチームに合った練習や作戦を立てることで、全員で楽しくゲームができた。 -----			

3 本時の学習

(1) 本時の目標

自己やチームの現状を捉え、チームに合った練習をしたり作戦を立てたりして、ゲームをすることができる。

(2) 本時の展開（6時間扱いの4時間目）

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
1 準備運動をする。 ・新聞ボール飛ばしをする。 2 前時の振り返りをする。 ・問題となる場面を想起する。 3 課題を確認する。 自分やチームの現状に合った練習をしたり作戦を立てたりして、楽しくゲームをしよう。	
4 チームタイムを設ける。 ・チームの現状から必要な練習や作戦を考える。 ・現状に合った練習をする。 5 ゲームをする。 ・攻撃、守備を1回ずつ行う。 ・守備は4人とする。 ・守備は打者の次の塁にボールを送るとアウトになる。 ・打者はアウトになるまで走り続け、塁を一つ通過すると1点となる。 ・兄弟チームが試合の様子を動画で撮影できるようにする。	<p>◇誰もが運動に親しむことができる指導の工夫 研究視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りやアドバイスを基に、チームの特徴を捉え、練習や作戦を考える。 ・兄弟チームで動きを見合い、アドバイスし合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【イ 運動についての思考・判断】 振り返りや兄弟チームのアドバイスから、チームの特徴を捉え、自分のチームの特徴に合った練習を選んだり、作戦を立てたりすることができる。 （観察、体育ノート）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が審判をし、ゲームを運営する。
自分やチームに合った練習や作戦を考え、楽しくゲームができた。	
6 本時の振り返り ・個人での振り返り（体育ノートの振り返り） ・全体での振り返り ※ルールに変更が必要かどうか確認する。	<p>◇学びを振り返り、運動の多様な価値を認める評価 研究視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育ノートに自己の現状や問題に対する解決方法、新たな問題を記入し、次時の学びにつながるようにする。 ・友達と動きのよさを評価し合い、自己の学びを実感する。
<p>◇授業の見所・本時で願っている児童の姿 自分やチームの現状を把握し、特徴を捉え、練習方法や作戦を考えている姿。</p>	

4 授業の実際

自己やチームに合った課題発見のための単元構成

本単元ではまず教材設定の工夫をしました。ベースボール型ゲームは走塁や守備等ルールが複雑な面があります。そこで、下記の「簡易化されたルールの例」で示したようにルールを簡略化し、ベースボール型の特性である「攻撃や守備のボール操作と、ボールを持たないときの動き」を全員が楽しめるようにしました。単元終末の振り返りから、「ティーボールが楽しかった。」「最初よりも成長することができた。」という記述が全員に見られ、ティーボールを十分楽しむことができたと考えられます。また事前の児童アンケートから、ティーボールの楽しさは「攻撃」と回答した児童が13名と最も多く、ボールを打つことに楽しさを感じている児童が多いことが分かりました。そこで、「攻防」というベースボール型の特性を味わうことができるよう、単元前半では攻撃に着目しながら、次第に守備の必要性に目が向けられるようにしました。単元導入時には課題を打撃と捉えているチームが8チーム中7チームと大半でしたが、2時間目に打撃練習中心、3時間目に守備練習を中心とすることで、「守備が上手にできるようになると失点が少なくなり勝つことができる」ということを理解するようになり、守備の重要性に気付くことができました。

○ティーボールの楽しさ

打撃…13人 (36%)

作戦…7人 (19%)

守備…6人 (17%)

○ティーボールで高めたい力

打撃…25人 (69%)

守備…14人 (39%)

【事前アンケートより（抜粋）】

次に、児童が疑問に思ったことや気付いたことから授業を構成していけるよう、前時までの振り返りの確認を充実させました。振り返りの時間は①授業の導入部分で全体として課題となることを確認する、②チームタイムでチームの課題を確認するという2回を設定しました。特に②のチームタイムの時間では、前時までのノートでの振り返りや、iPadで記録した試合の様子を見て、チームの課題を確認してから、作戦を立てたり練習を考えたりする様子が見られました。そのことにより、チームの課題が明確になり、課題に合った作戦や練習を考えることができました。

○攻撃、守備を1回ずつ行う。

○打者はアウトになるまで走り続け、塁を一つ通過すると1点となる。残塁は無し。

○打者が一巡すると、攻撃と守備が交代をする。

○守備は打者の次の塁にボールを送るとアウトになる。

○守備はボールを持ったら動くことができない。

○フライキャッチはアウトとする（子供が追加したルール）。

【簡易化されたルールの例】

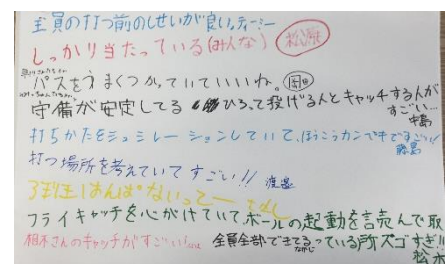
誰もが運動に親しむことができる指導の工夫

本単元ではまず、グループ設定の工夫をしました。兄弟チームを設定し、常に運動の様子を見合い、自己のチームの現状を把握したり、動きのこつに着目したりできるようにしました。兄弟チームを設定することで、練習を共に行ったり、試合を見合ったりし、意図的に相手の動きを「みる」時間が増え、動きのポイントを把握することができました。そこからやみくもではなく、ポイントを意識した動きができました。

次に、着目したことが相手に伝わるよう、体育館の壁面に班ごとのボードを用意し、よい動きやよりよい動きのアドバイスが常に記入できるようにしました。壁面のボードを使用することで、動きの中で気付くことが難しかったチームのよさや課題を認識することができました。さらに、壁面のボードを見ながら作戦を立てたり、チームの振り返りをしたりする様子も見られました。児童のノートに「コメントをもらうことが嬉しく、ゲームを頑張ろうと思った」という記述が見られ、授業への意欲にもつながったことが分かりました。



【兄弟チームで練習をする児童の姿】



【児童記入後の壁面のボード】

IV 1 年次研究の成果と課題

体育科研究では、研究テーマを「運動と多様に関わり、よりよく課題を解決することを通して、誰もが運動に親しむことができる体育科の学習」と設定し、「自己やチームに合った課題発見のための単元構成」「誰もが運動に親しむことができる指導の工夫」「学びを振り返り運動の多様な価値を認める評価」の3点を中心に研究を進めました。

1年次は、「自己やチームに合った課題発見のための単元構成」「誰もが運動に親しむことができる指導の工夫」を重点とし、研究を進めました。

1 研究の成果

- 運動の特性や児童の実態を基にルールを簡略化したり単元を構成したりすることで、児童全員が運動のもつ楽しさを実感することができました。
- 前時の振り返りの時間を充実させることで、児童が自己やチームの課題を明確にし、練習や作戦につなげることができました。
- 兄弟チームを設定することで、相手の動きを意図的に「みる」機会が増え、動きのポイントを見付け、自己やチームの動きに生かすことができました。
- 壁面のボードを活用し、動きのよさやアドバイスを記入することで、自己のチームのよさや課題を認識したり、学びへの意欲につなげたりすることができました。

2 今後の課題

- グループの効果的な組み方や運用方法を更に考えていく必要があります。
- 前時の振り返りの時間を更に充実させるために、授業の終末にどのような視点で振り返りをするか、児童の実態に応じて明らかにしていく必要があります。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 東洋館出版社 平成20年8月
- 小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年6月
- 初等教育資料 No.958「健康課題を解決する保健領域の指導の在り方」
文部科学省 東洋館出版社 平成29年9月
- 初等教育資料 No.971「豊かなスポーツライフの実現」
文部科学省 東洋館出版社 平成30年9月
- 体育科教育「体育における『かかわり』の再検討」 大修館書店 平成30年11月
- 体育科教育「深い学びへ誘う体育の授業づくり」 大修館書店 平成31年4月
- 体育科教育「これからの体育の学習評価の方向性」 大修館書店 令和元年5月
- 体育科教育「学校体育における『みる・支える・知る』スポーツって？」 大修館書店
令和元年7月
- 体育科教育「中・高校の体育を徹底解剖！」 大修館書店 令和元年9月
- 体育科教育「新しい体育の授業デザイン」 大修館書店 令和元年10月
- アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習 溝上慎一 東信堂 平成28年3月
- 平成29年版小学校学習指導要領ポイント総整理 岡出美則・植田誠治
東洋館出版社 平成29年12月
- 「資質・能力」を育むボール運動の授業づくり 岩田靖 大修館書店 平成30年8月
- アクティブラーニングで学ぶ小学校体育の授業づくり 鈴木直樹 大学教育出版
平成31年4月